



# 広島県支部会報



平成28年4月24日

## 第79号 三原市防災士ネットワーク総会

日時 : 平成28年4月19日 19時～20時30分  
場所 : 三原市城町 三原市サンシープラザ3階会議室  
主催 : 日本防災士会広島県支部三原市防災士ネットワーク (以下NWと略称す)  
参加者 : 防災士会員 20人、来賓1名

[挨拶]: 三原市危機管理課門課長の来賓挨拶と、三原市防災士NW竹原会長の挨拶があった。防災士による地域への防災講座への担当は益々増えている、また熊本地震と類似の活断層地震はいつどこで起こるか分からない。現在防災士の役割、期待が大きく注目されている。

### [報告、審議事項]

#### <1>平成28年度新会員紹介:

参加者21名の自己紹介が行われた。新年度に向けての意気込みと会員相互の連携、情報交換等への取り組みが感じられた。

#### <2>平成28年度広島県支部総会資料及び規約改正:

本会の名称変更と年会費について県支部総会の説明、県支部としての考えが説明了解、また審議の結果下記で決定した。

##### ①広島県支部組織の編成

県内を4ブロックに再編成は審議のうえ、下記となった

- ・広島ブロック (広島市)
- ・西部ブロック (廿日市市、大竹市、東広島市、呉市、江田島市、竹原市、豊田郡)
- ・東部ブロック (福山市、尾道市、三原市、府中市、世羅町、神石高原町)
- ・北部ブロック (三次市、庄原市、安芸高田市)

##### ②三原市防災士会の改名について

名称登録の規定上認定されないとの指摘があり、県内の市町の防災士会は「〇〇〇防災士ネットワーク」に改称する事を協議の結果、確認了承された

##### ③本部助成金等

- ・H28年度は1200円/一人となる
- ・旧三原市防災士会への県支部からの助成1万円/年は廃止となる
- ・H28年度のブロック助成費は昨年と変わらず、2万円/年は継続

④本会の年会費について

新年度から本ネットワーク（NW）の活動を活性化し、市民の防災力の向上を図って行く。そのために本NWでは年会費1000円納入する事が提案され、出席者の了承を得た。

⑤三原市防災士ネットワーク事務局の選任

萩由美子防災士と三村由加防災士が選出され、了解された。

⑥三原市防災士気員数

H27年度19人、H28年度参加8人、計27人

<3>平成27年度決算報告、平成28年度予算案の報告審議

会計、監査担当により説明あり、承認された

<4>H27年度地区活動報告

中央地区、西地区、備北地区、南東部地区、安佐地区別に報告された

<5>会員の新年度に向けて活動提案

- ・防災士として知りたい事、したい事を提言する
- ・年回の会議スケジュールを作成し計画的に開催する
- ・各自得意事項の発表を計画する
- ・得意分野の項目を出前講座で実施する
- ・防災士としてのスキルアップ講座を計画する
- ・身近な災害テーマを講話対象とする
- ・話し方を身に付けるため、ラジオで話し方を学ぶ
- ・避難訓練や防災訓練や消火訓練も重要で行動のポイントを学び、指導する
- ・地域を回り、住民に訓練をして、反省会をして、高齢者の課題を把握する
- ・防災組織率の向上、地域防災力のアップは個人の防災力アップから等有意義な意見が出た。

<6>「熊本地震」と三原市の課題（桑木）

中国新聞「広場」寄稿の“防災対策喫緊の課題”の主旨内容を説明し、熊本地震の発生と被害の大きさ、余震の拡大推移、中央構造線断層帯地震や南海トラフ地震の誘発へと繋がれば被害の拡大が懸念される。家族や地域で早く備えを講じる事が命を守り、身を守る喫緊の課題ですと話した。

<あとがき>

H28年度から27人の防災士で三原市の自然災害から市民の安全を守るため、自己研鑽と協力により防災・減災に取り組む事を申し合わせた。東日本大震災、広島土砂災害、熊本地震に続き、南海トラフ地震の近将来の発生予想などいつ起こっても不思議でない状況です。市民への啓発活動と減災取り組み支援に期待は大きい。（文責 桑木）

三原市防災士ネットワーク総会の様子

